



発行 北海道学校図書館協会
 会長 渡部 浩士
 事務局長 佐藤 正行
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>
 印刷所 (株) 有伸商会
 TEL (011)814-6211

令和3年度 青少年読書感想文全道コンクール 入賞者決定!!

今年も全道から、たくさんの素晴らしい作品が集まりました。第1次、第2次審査を経て、入賞者が決定しました。12月5日(日)に晴れの表彰式が行われます。入賞者の皆さん、おめでとうございます。

第67回 青少年読書感想文全道コンクール 第47回 北海道指定図書読書感想文コンクール

特別賞入賞者一覧

北海道知事賞	*「わたしにできること」 *平和な世界を祈って *夢を縫う	旭川市愛宕東小 5年 穴吹 瑠 室蘭市桜蘭中 3年 佐藤 優実 帯広柏葉高 3年 宇野 天那
北海道議会議長賞	*たからもののくつした *見た目だけではんだんしないで ・夢を見つける一歩 *私ってナニモノになるのだろう *共感が生む原動力	小樽市山の手小 1年 佐々木 深悠 帯広市柏小 4年 佐々木 花瑠 北見市東小 6年 丸山 翔生 小樽市潮見台中 3年 澤田 実典 上士幌高 1年 藤本 華梨奈
北海道教育委員会教育長賞	*「ないしょにかんばい!」を読んで *「幸太郎のニセモノをつくるには」 *普通って何? ・「富太郎の生き方から学んだこと」 ・自分らしく正直に	函館市湯川小 2年 川村 奈々未 岩見沢市栗沢小 3年 成田 幸太郎 旭川市高台小 6年 佐藤 開生 室蘭市東明中 2年 長井 悠 帯広緑陽高 3年 田村 唯
北海道学校図書館協会会長賞	・いのちにありがとう ・やっかいものは宝もの ・私に必要なこと ・誰もが学び続けられる世の中に ・葛藤	苦小牧市拓勇小 1年 京極 莉空 室蘭市海陽小 3年 境井 理人 苦小牧市拓進小 6年 安田 朱里 下川町下川中 1年 三浦 かな 士別翔雲高 2年 藤田 千草
毎日新聞社賞	・せかいに一つしかないズボン ・私の幸せ ・なりたい自分への第一歩 ・「ありがとうの恩返しを」 ・「僕は上手にしゃべれない」を読んで ・大切にしたい名前 ・「心のみえる化」 ・勇気とは、意外とあっけない。 ・「チャンス」ー夢へのかけ橋ー ・「きみの友だち」を読んで ・「こども六法」を読んで	札幌市緑丘小 1年 野里 尚慈 札幌市大谷地小 4年 豊沢 峰々 旭川市啓明小 5年 横澤 廉翔 苦小牧市緑陵中 1年 河毛 優芽 士別翔雲高 3年 岩野 誠己 旭川市緑新小 2年 對馬 史織 岩見沢市緑中 3年 田島 彩良 札幌光星高 3年 加藤 萌香 苦小牧市ウトナイ小 5年 伊藤 瑚雪 岩見沢市豊中 1年 大森 花音 別海町別海中央小 6年 上杉 正太郎
北海道読書推進運動協議会長賞	・ライオンを夢見続ける老人に何を思うか ・おべんとうをいただきます ・わたしと父の冒険 ・「だれかの記憶に生きていく」を読んで ・牧野富太郎を読んで ・「寛容な社会を希求して」 ・「笑っても大丈夫」 ・『聲』の持つ意味	旭川市緑新小 2年 三本 柚葉 室蘭市八丁平小 2年 四方 響 旭川市神楽小 3年 柚木 紗南 札幌市もみじの森小 6年 竹田 雅 小樽市忍路中 2年 野口 能禾 遺愛女子高 1年 井川 若菜 苦小牧市和光中 3年 梅田 真緒 函館商業高 2年 松本 菜々美 帯広市帯広小 3年 須田 陽愛 札幌市厚別北小 6年 佐々木 碧 札幌市平岡小 1年 山本 琴音 旭川市緑が丘小 4年 干場 詩葉 苦小牧市ウトナイ小 3年 山内 杏倫 室蘭市八丁平小 5年 岡野 日咲 苦小牧市緑小 2年 新田 健晃 札幌市北野台小 3年 森永 萌々夏
北海道青少年育成協会会長賞	・「AIロボット、ひと月貸します!」を読んで ・なりたい自分になりたい ・かんしゃのおべんとう ・えがおのために「はたらく」 ・ミアのおじいちゃん、ありがとう ・7年目のランドセルを読んで ・きれいな水はあたり前じゃない ・取扱説明書って何だろう?	
北海道PTA連合会長賞 北海道高等学校PTA連合会長賞 北海道教育振興会長賞		
はるにれ賞 教育出版社賞 文研出版社賞 北海道図書教材協会賞 図書館ネットワーク賞 北海教育評論社賞 光陽社賞 光村図書出版社賞		
学校賞	小学校の部 中学校の部 高等学校の部	苦小牧市立ウトナイ小学校 遺愛女子中学校 北海道士別翔雲高等学校

*は、全国コンクール応募作品です。(各部から代表~自由1点・課題1点)

北海道知事賞

「わたしにできること」

旭川市立愛宕東小学校 5年 穴吹 瑠

わたしは読書が大好きです。図書館に行くと毎回十冊は借りてきます。最近は友達などに紹介された本や自分の好きな小説を読むことが多いです。今年の課題図書も3冊借りました。そして最後にこの本「オランウータンに会いたい」を読みました。最初はまったくオランウータンに興味はありませんでしたが、読んでいくうちに「この本で書きたい!」と強く思いました。オランウータンのことに自分でも不思議なくらい興味がわき、好きになっていました。

次の日、自転車で旭山動物園へむかいました。そこには三頭のオランウータンがいました。たしかにオスはメスの倍の大きさで、本のとおりでした。そして、驚いたのはフランジ・オスがいたことです。フランジとよばれる顔の両側に大きく張り出した部分があるフランジオス。群れの中でもトップの存在でフランジどうしが会うと殺してしまうようなはげしいケンカをしてしまう。そんなフランジオスがいました。小さいころから何度も行っている旭山動物園だけど、この本のおかげで初めて行った時のような感動をあげることができました。

この本の作者、久世濃子さんは、出会いで人生がどんどん変わっていきました。最初はあまり興味がなかったものに引きこまれていく…、そんなおもしろい人生。「わたしもこれからの人生がそうなってほしいなあ」と期待してしまいました。まだ十一歳のわたしですが、同じように引き込まれていったものがあります。それは友だちにさそわれ、見学に行ったダンス教室。知らない人がたくさんいる中で、きんちょうで動けなかったわたしに「動かないと始まらないよ」と言ってくれた人がいました。その子のおかげできんちょうがとけ、おどり始めることができました。

今では四年目になります。この本の作者と似ていてう

れしくなりました。

旭山動物園に行ったとき、目にしたものがあります。それは、「ボルネオへの恩返しプロジェクト」という言葉。今、オランウータンには絶滅の危機がせまっています。その理由の多くはパーム油にあります。パーム油を口にしたことがない日本人はほとんどいないそうです。パーム油とは世界でもっとも多く消費されている「植物油」のことです。この油をとるために、熱帯雨林が伐採されオイルパームに植え替えられています。

「恩返しプロジェクト」という言葉を目にした時、わたしは自分に何かできることはないか?と考えました。すると休憩所で本の中で目にしたR S P Oの認証マークの入った製品が置かれていました。わたしは「これだ!」と思いました。わたしはそれらを「やさしい製品」と名づけることにしました。これからは、スーパーなどで、まずは「やさしい製品」かどうか確かめ、母にすすめようと思います。それが、わたしにできるオランウータンを守るための第一歩です。



『オランウータンに会いたい』

久世 濃子／著

(あかね書房)

北海道知事賞

平和な世界を祈って

室蘭市立桜蘭中学校 3年 佐藤 優実

「多様性と調和」。これは東京オリンピックの大会ビジョンのコンセプトの一つである。しかし、この大会の開会式前日のニュースで報道されたのは、開会式のショーディレクター担当者が過去のホロコースト（ユダヤ人大量虐殺）を題材としたコントでの発言を巡り組織委員会から解任された、という事だった。このニュースを見たとき私は今回読んだ本の事を思った。舞台は第二次世界大戦中のフランス。ある日ドイツ兵が村に駐留する。村にはオルガータさんの娘婿、ユダヤ人のベンジャミンが隠れていてユダヤ人の子ども達を連れて中立国スペインへ逃げるといふ物語だ。先に挙げたニュースやこの本を読んで、たくさんのユダヤ人が捕えられ、強制収容所に送られてしまった「ホロコースト」という事実を私は忘れてはいけないと思った。同様に日本に原爆が投下されたという事実も忘れてはいけないことだと思った。広島県、長崎県に落とされた原爆。この原爆によって命を落とし、また今でも後遺症に苦しんでいる人が多くいる。このような過去を忘れずに後世に伝え、二度と悲劇が起こらないようにすることが大切だと思う。

私には現在八十三歳の祖母がいる。この本を読んで戦争を体験した祖母に話を聞いてみることにした。祖母から話を聞いた日は偶然にも八月六日、広島「原爆の日」であった。「七十年前のことで記憶も曖昧だから。」と言いながらもたくさんのことを話してくれた。戦争当時、祖母は五歳ほどだったそうだ。祖母は東京で生まれ生活していたが、だんだん戦争が激しくなってきたので祖母は兄とともに子供二人だけで疎開したそうだ。疎開先は広島県呉市、祖母の父の実家である高祖母の家だった。祖母が最初に話してくれたのは防空壕での話だった。大勢の人が共同で掘ったそれはとても大きく迷路のようだったそうだ。空襲警報が夜に鳴るなか、毎回幼い祖母を連れて逃げるが大変だということで、あるとき高祖母があらかじめ祖母を防空壕に入れておいたそうだ。祖母は真っ暗な中一人であるのが怖かった、と話してくれた。また、しばらくして疎開先の呉市が東京より空襲が多いのではないか、ということになり祖母は兄と二人で汽車に乗って東京に帰ってきたそうだ。普通なら広島から東京は一日程で到着できるのだが、汽車が空襲警報で何度も止まって二、三日も掛かったそうだ。私は祖母に質問するのを忘れてしまったのだが、乗車中お腹は空かなかったのか、夜は眠れたのかな、と思った。その約一ヶ月後、広島市に原子爆弾が投下されたそうだ。

私は夏休みの一日、室蘭市教育委員会主催のイングリッシュトライアルに参加した。そこではニュージーランド、アメリカ、シンガポール、コートジボワール等、様々な国籍のALTの先生方が担当して下さる各ブースを参

加生徒が回って、担当の先生方と英会話をして評価を頂くイベントだ。私は各ブースの先生方との英会話がとても楽しかった。英語を通して様々な国の人と仲良くなれることは自分の世界が広がるようでとても良い思い出となった。そしてもし今、日本が戦争をしたならこのような体験はできないと思った。異国から来日され、生徒のことを考えて下さる先生方がもし戦争で自分の敵になったとしたら、と考えるととても悲しいことだと思った。

この物語では宗教の違いが描かれている。カトリックのオルガータバあさんは「神様に祈るしかないね」と娘婿のベンジャミンに言うとユダヤ教のベンジャミンは「どっちの神様に？」と問いかける。オルガータバあさんは「両方に祈ればどうだい？」と答える。またレスキュン村のラサール神父は教会でコンサートを開く時に村人とドイツ兵に「私たちと、あなた方の神です。」「カトリックでも、プロテスタントでも、どなたでも歓迎します。」と語りかける。たとえ宗教が違っても受け入れる心があれば仲良くできるのだ、と思った。

ベンジャミンの「待つて、祈る」という言葉が印象に残っている。今私が祈りたいことは三つある。世界の人々の平和を願うことと新型コロナウイルスが終息し日常を取り戻すことである。そしてもう一つは東京オリンピックのビジョンである「多様性と調和」が世界で実現することだ。私もベンジャミンのように「待つて、祈る」ことをしようと思った。

祖母は話の最後に今の人達は恵まれているということを知って欲しいと言った。私達は身近な幸せに気づくべきだと思う。戦争のない日本に暮らしていること、家族がいること、おいしいご飯をたくさん食べられること、学校に行けること等だ。もちろん辛いことや嫌だななど不満を感じることはある。しかし、祖母の話を聞いたりこの本を読んだりすると今私はとても恵まれているのだ、と再確認させられる。先祖から繋がってきた命に感謝し、日々を大切に生きて行こうと思う。



『アーニャは、きっと来る』

マイケル・モーパーゴ／作

佐藤 見果夢／訳

(評論社)

北海道知事賞

夢を縫う

北海道帯広柏葉高等学校 3年 宇野天那

昔の私は、周りの人と違う行動や考えを持つことを嫌い、「みんなと同じ」であることにいつも安心感を覚えていた。でもいつからか、それに対して何か無理やり型に嵌められているような居心地の悪さやひっかかりを感じるようになっていた。

この物語に登場する人物達は各々、過去の出来事や自分を取り巻く様々な価値観に縛られながら、自分がみんなと違うこと＝「普通」ではないことに悩んでいる。「男なのに」刺繍が好きな清澄はずっと学校で一人だった。姉の水青はトラウマのせいで「女なのに」みんなが可愛いというものを拒絶し、母さつ子は「母親なのに」我が子に対して世の母親と同じような愛情を持っていないことに悩み、父全はその浮世離れしている性格と才能のため「普通の父親」でいられなくなった。祖母文枝は「いいお嫁さん」「いい奥さん」を求められ、ずっと自分を抑えて生きてきた。

今、私にも「普通」でいられないことができた。私には今、絶対に叶えたい夢がある。それを実現するために専門学校への進学を決めたのだが、私の通っている高校は大学への進学率が非常に高く、私以外のほぼ全ての生徒が大学進学を目指し、日々受験勉強に勤しんでいる。そのような環境の中にいると、自分が場違いな人間であるような気がしてならない。幸い私の家族や近しい人達は私を理解し私の夢を応援してくれているが、時々先生や知り合いに「勿体ない」「大学には行った方がいいよ」と言われると、一生懸命考えて決定した私の進路や夢を否定されているような気持ちになって少なからず憤りを感じることもある。当然みんな心からの善意で言ってくれていることは百も承知だ。学歴社会という現実の中で、私の将来を心配して、私のことを思って、かけてくれる言葉だとよくわかっている。きっと、さつ子も私に同じことを言うだろう。大学には行かない、と水青が言った時、さつ子は泣いた。娘の大学に行かないという選択は、「普通」の人生から娘が外れてしまうことであり、それは娘にとって不幸な結果になると信じ込んでいるからだ。

私は水青に自分を重ねた。普通でないことは、幸せでないことなのだろうか。そもそも、普通の基準なんてものがあるのだろうか。

日常会話の中で「普通」という言葉を用いる時、「一般的には」「大抵の場合では」というような意味合いを指すことが多い。だから、「普通はこうするよ」「普通に考えておかしいよ」という指摘をされると、まるで世の中の大半VS自分一人と言われているようで、何か間違ったことをしたかのような気持ちになる。でも私は普通と違っていても、それがおかしいとは思えないし、むしろそんなことは当たり前だとさえ思っている。人には、生まれ育った環境や時代、今まで一緒に過ごしてきた家族

や友人の性格や関わり方など、その人の人間性をつくる背景が必ず存在していて、自分と全て同じものを持つなんて人はこの世に存在するはずがない。自分と誰かを比較して異なる部分があったからといって考えや行動を否定することは、それらを構築する背景、つまりその人の人生まで否定することになってしまうのではないか。たとえ、一方がマジョリティの上に立ち、もう一方がマイノリティにある関係だったとしても、数は、生き方を否定する理由には絶対にならない。

「生き方を否定する」というと大袈裟だと感じる人もいるかもしれないが、今世界中で注視されている差別問題はこの最たる例である。自分の思う「普通」に当てはまらないという理由で、暴力で、武力で、圧力で、言葉で、誰かを攻撃することは、どんな言い訳にも及ばない卑劣な恥ずべき行為だと私は思う。もちろん他人の全てを受け入れるという訳ではない。ただ、どんな状況や相手でも、自分の価値観を押し付けず、相手のことを知ろうとし、「なるほど、自分とは違うけれどそういう考え方もあるのか」と否定せずに認めることができる人はしなやかに魅力的だ。そして何歳であっても成長し続ける。

私は、私の夢を心の底から誇りに思っている。確かに大学進学之道を選んだ方が安定した人生が待っているのかもしれないけれど、それは私にとっての幸せではない。私の幸せは私自身が決め、そこには誰かに押しつけられた価値観も普通も存在しない。もしそれで失敗したとしても、それは私自身の糧にしかならない。その糧を手にもたやり直せばいいだけだ。文枝の言うところの「失敗する権利」が私達にはあるのだ。どんな結果だとしても、自分で撒いた種から生まれ育った特別な実を刈り取る権利は、自分自身にのみ存在する。

読み終えてから、先日私の尊敬する先生が私に言ってくれたある言葉を思い出した。

「君達には可能性しかない。」

私はこの言葉を胸に、自分の可能性を信じ、自分の中の川の水を淀ませることがないように、しなやかに夢に向かって邁進していく。



『水を縫う』

寺地 はるな／著

(集英社)

北海道議会議長賞

たからもののくつした

小樽市立山の手小学校 1年 佐々木 深 悠

「あ！おきにいのくつしたがすてられてる！」
わたしがさげぶと、おかあさんはいった。「うすくなっているし、おやゆびのところにあながあいているから、もういいのよ。」

「だめ!!」

わたしはいそいでごみばこからくつしたをとりだし、ぎゅっとだきしめた。おかあさんは、「やすものだし、もうちいさくなったからいいのよ。あながあいていたらはずかしいでしょう？こんど、あたらしいのをかってあげるから。」と、つづける。

「それでもだめなの!!」

わたしはなきそうになった。

あ～あ、こんなとき、いえにジグモンタがいてくれたらなあ。

わたしはクモがきらいだけれど、ジグモンタならだいかんげいだ。おさいほうがながてなおかあさんのかわりに、おきにいのくつしたも、木にひっかけてさけたジャンパーも、ころんでひぎにあながあいたズボンも、ジグモンタにぜんぶなおしてもらいたい。

それに、わたしはヒキガエルみたいにりゅうこうおくれなコートはすててしまってもよいなんていわないし、ハリネズミのすえっこみたいにおねえちゃんのおふるを

いやがったりしない。だから、ジグモンタもかなしいおもいをしなくてよいとおもう。

わたしは、おねえちゃんのおさがりのティーシャツやワンピースをよるこんできている。ぼろくたって、わたしにとってはたからものだ。そして、ハリネズミのペールのように、ジグモンタがわたしのふくにおはなやりボンをつけてかわいくリメイクしてくれたら、もっとさいこうだとおもう。

あ～あ、ジグモンタにあいたいなあ。

あながあいたくつしたは、おかあさんにみつからないようにかくしておいて、こんど、おばあちゃんになおしてもらおうとおもう。



『あなふさぎのジグモンタ』

とみなが まい／作

たかお ゆうこ／絵

(ひさかたチャイルド)

総 評



審査委員長 北海道学校図書館協会副会長 廣川 雅之
(市立札幌大通高等学校長)

本年度の第67回青少年読書感想文全道コンクール及び第47回北海道指定図書読書感想文コンクールには、全道各地から昨年度よりも多い657点の作品が寄せられました。新型コロナウイルス感染症の影響が続く中でしたが、各支部の厳正な審査により選び抜かれた多くの素晴らしい作品が揃いました。応募いただいた児童・生徒の皆さんはもちろんのこと、熱心に指導に当たられた先生方や子どもたちの健やかな成長を願って温かく見守り続けてこられた保護者の皆様に、心から感謝を申し上げます。

本コンクールの審査は、小学校低・中・高学年、中学校及び高等学校の5部門に分かれ、総勢21名の審査委員により厳正に行われました。審査を振り返りますと、選んだ本と自らの体験とを上手に結び付け、そこから得られた共感や考えを、成長段階に応じた自分なりの言葉で率直に表現したことで、読み手に深い感動を与えた作品が多く見られました。また、本を読み進める中で自分自身と向き合い、将来の夢や希望などについて考えるようになった過程を、読み手に伝わるように工夫し、とても上手に表現できている作品も多く見られました。このように、読書により感じたり考えたりしたことを、「書く」という行為を通して読み手と対話することは、読書感想文の醍醐味であると改めて実感する機会となりました。

今年度に限ったことではありありませんが、応募された作品の多くは、原稿用紙の最後の一行まで、一文字一文字丁寧に清書された完成度の高いものです。推敲に推敲を重ねながら練り上げた文章でなければこのように制限字数いっぱい仕上げることはできません。そして、その真剣に取り組む姿勢は読み手にもしっかり伝わります。是非、このことも読書感想文の大事な点としてお伝えしたいと思います。

読書を通して、本と親しみ、考え、感じたことを文字で伝えることは、大切なコミュニケーションの1つだと思います。これからも、読書感想文コンクールがそのきっかけとなることを願っております。

北海道議会議長賞**見た目だけではんだんしないで**

帯広市立柏小学校 4年 佐々木 花 瑠

数日前、お母さんに
「ちょっとこれすてきてー」。
とゴミをわたされました。わたしがそれを持ってゴミす
て場に着くと、向こうからカラスがひょこっと顔を出し
ました。わたしはカラスが苦手だったので、急いでゴミ
をすてて小走りで家に帰りました。

黒くてゴミをあらすめいわくな鳥、それがわたしのカ
ラスへのイメージでした。

「ここはおれ様の場所だ。早く向こうに行けよ！」
とでも言うかのように、人間に向かって来るのも苦手な
理由の一つでした。

わたしの通学路には、春から夏にかけてカラスがたく
さんいます。ゴミすて場でカラスに鳴きながらいかくさ
れている人を見かけました。もしわたしも同じようにい
かくされたらと思うと、こわくてたまりませんでした。
そこをやっと通りすぎたと思っても、またその先にカラ
スがいるのです。

私が『カラスのいいぶん』を読もうと思ったのは、カ
ラスのことをもっとよく知ればイメージがかわるかもし
れないと思ったからです。

「カラスなんて大きらいだ！」この本の作者は、空か
らフンを落とされて心のそこからそう思いました。しか
し、カラスの観さつをするうちにきらわれ者のカラスの
頭の良さに感心していき、人間にめいわくをかけている
ようにしか見えない行動にも、理由があるということに
気づき始めます。そしてしまいにはカラスのファンになっ
てしまうのです。

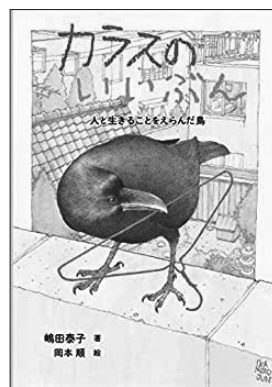
カラスが頭が良いというのはおばあちゃんから聞いて
知っていたのですが、思ったよりも頭が良くて、人間で
いうと八才くらいの知のうを持っているのではないかと
言われていることにびっくりしました。

また、カラスが人をいかくしていたことがあったけれ
どそれもむやみやたらにおそったわけではなく、自分の
ひなを守るためにおそったのです。自分のひなをあぶな
いめにあわせたりころしたりした人の顔をずっと覚えて
いて、その人だけをおそっていたと書いてあったので、
カラスの記おくの良さにもとてもおどろきました。

カラスにも人間のように心があって、大切な物を守り
たいと思う気持ちがあるんだということが分かりました。

人は見た目だけでは分かりません。カラスだって同じ
ように見た目が全てではないのです。それなのに、イタ
ズラばかりする悪い鳥だと思いこんでいました。でも実
はかなり頭が良い上に、ひなの事を一番に考えているの
です。ゴミをあさるのだから、生きていくためにはどう
しても必要なのです。そんなカラスが今は少しかわい
いとさえ思います。

これからは、他の事に対しても見た目やイメージだけ
ではんだんしないで、良いところもちゃんと知るど力を
していきたいと思います。



『カラスのいいぶん
人と生きることをえらんだ鳥』

嶋田 泰子／著

岡本 順／絵

(童心社)

令和3年度(2021年度) 北海道の先生がおすすめる本 北海道指定図書

小学校低学年の部(1・2年)



悲しみのゴリラ

ジャッキー・アズー・クレイマー/文
シンディ・ダービー/絵 落合 恵子/訳
クレヨンハウス 定価1,800円+税

母親を亡くした少年のもとに現れたゴリラ。少年の問いに一つひとつ答えます。深い悲しみにそっと寄り添う絵本。



かしたつもり×もらったつもり

かさい まり/作 北村 裕花/絵
くもん出版 定価1,400円+税

聞きまちがいから始まる。親友の男の子ふたりのけんかとお仲わり。小さな心のゆれが子どもたちの共感をよぶ物語です。



氷上カーニバル

あべ 弘土/作
のら書店 定価1,600円+税

「雪まつり」以前、札幌市でおこなわれていた「氷上カーニバル」。よきこびあふれる楽しい記憶を描いた美しい絵本。



アルフィー ゆくえふめいになったカメ

ティラ・ヒーダー/作 石津 ちひろ/訳
絵本塾出版 定価1,500円+税

ニアは、カメのアルフィーが大好き。ニアの7歳の誕生日の朝、アルフィーが姿を消してしまう。どこへいったの？

小学校高学年の部(5・6年)



しあわせなときの地図

フラン・ヌエヨ/文 スザンナ・セレイ/絵 宇野 和美/訳
ほるぶ出版 定価1,400円+税

戦争で町をでる前の夜、ソエは地図をひるげ、思い出の場所にしるしをつけました。心に響く、小さな希望の物語。



消えたレッサーパンダを追え!

警視庁「生きもの係」事件簿

たけたに ちほみ/文 西脇 せいご/絵
学研プラス 定価1,400円+税

動物園からレッサーパンダが盗まれた! 警視庁で生き物の密輸などを扱う「生きもの係」が事件にせまらる。迫真の美話。



きみの声がききたくて

オーウェン・コルファー/作 P.J.リンチ/絵
横山 和江/訳

文研出版 定価1,400円+税

深い傷を負いほえることができなくなった小犬と、声を出すことをやめた少年。ふたりの同じねがいはかなうでしょうか。



命のうた

ぼくは路上で生きた十歳の戦争孤児

竹内 早希子/著 石井 勉/絵
童心社 定価1,400円+税

1945年、戦争が十歳の清一郎から、両親も家も奪った。食べる物も寝る所も無い中で子ども達はどのように生きてきたのか…。

小学校中学年の部(3・4年)



世界遺産知床の自然と 人とヒグマの暮らし

伊藤 彰浩/写真 伊藤 かおり/文
少年写真新聞社 定価1,600円+税

人前に姿を現し観光客を驚かせる反面、地元の人々を不安にさせるヒグマと人との共存の知恵を知床から伝えます。



AIロボット、ひと月貸します!

木内 南緒/作 丸山 ゆき/絵
岩崎書店 定価1,200円+税

ぼくにそっくりのAIロボットがやってきた。名前はエイト。夢のような一か月が過ぎて…その日は来てしまった。

中学校の部



ドーナツの歩道橋

升井 純子/著
ポプラ社 定価1,400円+税

麦菜はパン屋を営む両親と弟、祖母と暮らす高校一年生。介護が必要な祖母との毎日に、心は「好き」「嫌い」に揺れ—。



イーブン

村上 しいこ/作
小学館 定価1,400円+税

友人と喧嘩をして不登校になった美枝里は、キッチンカーでカレーを作るおじさんと少年に出会う。少女たちの成長物語。

感想文は夏休み明けに、学校に出してください。詳しくは、「応募のきまり」をご覧ください。

北海道学校図書館協会 検索

第67回 青少年読書感想文全道コンクール 第47回 北海道指定図書読書感想文コンクール

■主催/北海道学校図書館協会・毎日新聞社北海道支社

■後援/北海道・北海道議会・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会 ■選定協力/北海道読書推進運動協議会



北海道の本を読みましよう!

優 秀 賞

小学校（低学年）の部（12名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
「にじいろのさかな」をよんで	米 倉 旭 飛	留萌市留萌小	1年
しあわせになったダイくん	長 江 理 仁	岩見沢市南小	2年
カラフルモンスター	佐々木 秀 悟	室蘭市旭ヶ丘小	2年
できないせかいでできること	佐 藤 葵	室蘭市天神小	2年
じゆうに外に出られるように	斉 藤 灯 里	室蘭市海陽小	2年
ひみつのきもちぎんこう	本 田 結 栞	函館市北美原小	2年
「やさしいおうえん」	田 嶋 新	苫小牧市若草小	2年
わたしの「そのときがくるくる」	田 中 沙緒梨	千歳市信濃小	1年
ぼくにも「そのとき」がぜったいに来る	青 山 瑛 汰	室蘭市旭ヶ丘小	2年
「そのとき」がくるまで	南 川 瑛大朗	室蘭市天神小	2年
しんだらどうなるのかな	菅 原 悠 心	札幌市桑園小	1年
けんかになったりゆうは？	太 田 悠 翔	室蘭市旭ヶ丘小	2年

小学校（中学年）の部（12名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
大切な時間	中 村 紗和子	旭川市神楽小	3年
私とキキの物語	本 多 祐実香	安平町追分小	3年
小さな小さなウイルスの大きなはなし	山 上 百 華	室蘭市白蘭小	4年
あいしてくれて、ありがとう	伊 藤 聡 佑	教育大附属函館小	3年
ぼくたちのぼうけん	武 井 煌 雅	森町森小	3年
カラスの本を読んでかわる	上 杉 実日子	別海町別海中央小	3年
未来と過去へのスイッチ	松 田 采 士	苫小牧市美園小	3年
知らないものって宝もの	佐 藤 楓	帯広市緑丘小	3年
森の番人	太 田 樹	函館市北美原小	4年
ヒグマと共に	藤 田 瑠 音	岩見沢市美園小	4年
わたし達にできること	加 藤 優 希	函館市赤川小	4年
一生けん命に生きるクマ	幅 田 智 樹	苫小牧市若草小	3年

小学校（高学年）の部（12名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
みんなちがっていい個性	岡 崎 音 花	室蘭市八丁平小	6年
カカ・ムラドのつながる想い	竹 内 柊 花	札幌市新陽小	6年
生きる糧『天国にとどけ！ホームラン』を読んで考える。家族のこと。	竹 野 琥 珀	室蘭市地球岬小	6年
夢への第一歩	山 田 つぐみ	室蘭市白蘭小	5年
「ありのまま」と「チャレンジ」	渡 邊 心 雪	苫小牧市ウトナイ小	6年
「サンドイッチクラブを読んで」	和 田 明 栞	函館市北美原小	5年
私も珠子のように	菊 地 凜	函館市深堀小	5年
「命のうた～ぼくは路上で生きた十歳の戦争孤児」を読んで	南 川 安 菜	室蘭市天神小	5年
「しあわせなとき」ってどんなとき	二本柳 拓 海	函館市えさん小	5年
きみの声がききたくてを読んで	藤 田 風 雅	室蘭市海陽小	6年
「命のうた」を読んで	関 蒼 人	函館市東山小	5年
	佐 賀 結 衣	留萌市東光小	6年

優 秀 賞

中学校の部 (15名)

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
今、青空の前で	関 根 凜 咲	遺愛女子中	3年
天、共に在り	佐 藤 ひかり	遺愛女子中	2年
「はずれ者が進化をつくる」を読んで	村 井 暖 奈	遺愛女子中	1年
月への手紙	藤 森 美 咲	滝川市明苑中	3年
生き方を考える	大 野 心 路	旭川市北星中	2年
神様どうして私なの	徳 丸 美 穂	留萌市留萌中	3年
新しい自分	中 山 優 月	岩見沢市清園中	2年
「昨日より強い自分」へ	伊 藤 ひとみ	苫小牧市啓明中	1年
with youを読んで	吉 川 寧 音	滝川市開西中	3年
『死ぬまで、生きる』	二 瓶 優 生	岩見沢市豊中	2年
大切なあなたと共に	岡 本 栳 蓮	北斗市大野中	2年
小さな祈り-「アーニヤは、きっと来る」を読んで-	福 岡 唯	留萌市港南中	1年
追究する強い気持ち	齋 藤 葵	七飯町大中山中	1年
『好きこそ物の上手なれ』～情熱の先にあるもの～	横 澤 紗 映	音更町共栄中	1年
イーブンな関係	山 本 好 花	遺愛女子中	3年

高等学校の部 (9名)

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
「老人と海」を読んで	目 良 茉莉香	札幌聖心女子学院高	2年
「少年と犬」と私	上 光 優 花	帯広緑陽高	1年
人生の重さ	橋 本 朔	帯広柏葉高	1年
多様性	竹 内 友羽愛	士別翔雲高	2年
健やかな論理は存在しない	齊 藤 小 桃	帯広柏葉高	1年
武器ではなく命の水を送りたい	後藤田 咲 奈	士別翔雲高	2年
夢をかなえるゾウを読んで	前 多 信 樹	士別翔雲高	3年
『普通でいること』	井 上 鈴 夏	函館商業高	2年
水を縫うを読んで	日 下 慧 乃	帯広緑陽高	3年

◆感想文集『北海道の読書』（令和3年度版）の普及を

第67回青少年読書感想文全道コンクール入賞作品集

○小学校版 (1,000円)

特別・優秀・優良 入賞者全作品を掲載

○中学校・高等学校版 (1,000円)

特別・優秀・優良 入賞者全作品を掲載

【申し込み・問い合わせ】

北海道学校図書館HP > 読書感想文コンクール > 北海道の読書 > 学校宛・個人
札幌市立平岡小学校 教諭 佐藤秀則 FAX 011-883-9419

■12月28日までに「北海道学校図書館協会文集会計」宛に、申込・送金をお願いします。

1月下旬にお届けを予定しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

締切を過ぎての申込の場合、2月下旬のお届けとなります。

優良賞

小学校（低学年）の部

室蘭市旭ヶ丘小	1年	池田 隼
札幌市新川中央小	2年	山田 うみ
札幌市大倉山小	2年	野中 蒼汰
旭川市春光小	2年	片桐 彩花
森町森小	2年	佐藤 礼奈
旭川市北鎮小	1年	白幡 莉子
森町森小	2年	阿部 竜馬
函館市北美原小	2年	山村 優菜
函館市北美原小	2年	波田 ふみ
札幌市美香保小	1年	遠藤 愛季
札幌市桑園小	2年	岡 大翔
深川市一己小	2年	安居小優莉
室蘭市海陽小	2年	藤井 杏菜
苫小牧市拓勇小	1年	荒井結乃介
室蘭市旭ヶ丘小	2年	蒲原 優奈
苫小牧市拓勇小	1年	京極 聖空
函館市中島小	2年	大和田さくら
留萌市緑丘小	2年	久留宮 凜
留萌市留萌小	2年	山本 修也
室蘭市海陽小	2年	有賀 公星

岩見沢市美園小	3年	北山 裕樹
旭川市近文小	3年	本間 明華
滝川市東小	4年	石岡 悠翔
函館市赤川小	4年	野田 千実
札幌市澄川南小	3年	皆川 広登
室蘭市みなと小	4年	鈴木 莉彩
滝川市東小	3年	岡田 姫湖
帯広市稲田小	3年	濱谷 朋果
函館市北美原小	4年	高田 もあ

滝川市明苑中	3年	滝頭 結
滝川市明苑中	2年	高橋 佑
小樽市潮見台中	2年	門脇 愛莉
岩見沢市緑中	1年	菊地 冴
岩見沢市緑中	3年	澤原 朋花
岩見沢市緑中	3年	北口 楓花
士別市朝日中	3年	多羽田なのは
登別明日中等教育	2回生	高岡 美桜
美幌町美幌中	2年	齋藤 彩瑛
帯広市帯広第四中	2年	鎌田 那奈
音更町下音更中	2年	宇野 仁海
留萌市留萌中	3年	佐伯 愛花
室蘭市翔陽中	1年	有賀 友香
函館白百合学園中	3年	門田 沙采
遺愛女子中	2年	中川 実玲
岩見沢市北村中	3年	東 七夏
岩見沢市明成中	2年	中山 啓太
登別明日中等教育	3回生	高澤凜佑子
札幌市琴似中	1年	和田 侑恭
函館白百合学園中	3年	石塚和佳奈
札幌市向陵中	2年	堀山 直浩
滝川市明苑中	2年	小松田しゅう
教育大附属函館中	1年	太田 陽

小学校（高学年）の部

札幌市厚別西小	6年	坂本 温音
札幌市新琴似南小	5年	上野 晴南
札幌市清田緑小	5年	東地 賢頼
岩見沢市南小	6年	千葉 好香
札幌市福住小	5年	引田 明里
苫小牧市ウトナイ小	6年	山内 悠万
苫小牧市澄川小	5年	石橋 美優
余市町沢町小	6年	吉田 葉音
苫小牧市拓勇小	5年	加藤 壮真
恵庭市和光小	5年	楨 悠々乃
札幌市ノホロの丘小	6年	細谷 健人
平取町平取小	5年	村上 岬季
室蘭市八丁平小	5年	四方 奏
旭川市西御料地小	6年	西野目実亜
札幌市円山小	5年	村尾優衣花
札幌市福住小	6年	岩本 亜澄
留萌市留萌小	6年	野々村玲風
札幌市厚別北小	5年	鈴木 爽太
札幌市日新小	5年	齋藤 楓子
森町さわら小	5年	平井 結愛

高等学校の部

函館白百合学園高	1年	時田 三鈴
登別明日中等教育	4回生	長尾 広子
登別明日中等教育	4回生	高橋 沙綺
登別明日中等教育	4回生	堅田 菜央
札幌光星高	2年	薬師 瞭
函館商業高	1年	廣澤 はな
士別翔雲高	1年	西田 文香
士別翔雲高	2年	武山 知莉

中学校の部

遺愛女子中	3年	高田佳乃子
-------	----	-------

小学校（中学年）の部

函館市赤川小	4年	細井 睦
室蘭市旭ヶ丘小	4年	佐藤 海向
音更町木野東小	4年	清水 陽叶
小樽市山の手小	3年	佐々木結望
函館市旭岡小	3年	武井 咲來
留萌市東光小	4年	山口 新花
苫小牧市緑小	4年	新田明日葉
岩見沢市第一小	3年	伊藤このん
旭川市神居東小	3年	青木 慧悟
札幌市新光小	4年	佐藤 美和
苫小牧市拓進小	3年	田野 紗彩

第44回北海道学校図書館研究大会函館大会授業者からの声

前号に引き続き、今号も北海道学校図書館研究大会函館大会で授業公開された授業者の先生から、授業づくりのご苦労や振り返ってのご感想などをいただきましたのでご紹介いたします。

◇中2 情報活用能力の育成（国語科）

学校図書館やインターネットを活用して、必要な情報の収集を！

函館市立巴中学校 教諭 丹藤 詩織

とある日の放課後、部活動で小学校の体育館を借りるためご挨拶を…と伺ったところ、そこにいらっしゃったのは、なんと小林副会長！ 久しぶりの再会で話に花を咲かせていたはずなのに、気づくと授業者に推薦されていました。その時は函館市学校図書館研究会に所属していませんでしたが、暢気な私は、授業をとおして本校図書館を見てもらえるいい機会としか思っていませんでした。開校4年目の本校図書館は、学校図書館司書教諭の溝口さんをはじめ、図書館ボランティアのみなさん、図書委員の生徒たちによって工夫を凝らしたスペースになっており、自慢の図書館だと胸を張って言えます。残念ながら授業自体は図書館で行えませんでした。日頃の図書館の様子を別途、動画でご紹介できて良かったです。

授業にあたり、溝口さんには様々な場面で相談にのっていただきました。我が儘なお願いも快く引き受けてくださり、感謝の思いでいっぱいです。本当にありがとうございます。さらに市内の小中学校や市立図書館から50冊近くの図書を借りることもできました。相互貸借や団体貸出など、何で今まで知らなかったのだろう、と思うくらい便利なシステムでした。蔵書数で見るとまだまだの本校ですが、様々な方法で本を集められることを知れました。

さて、実際の授業では、ある生徒が「図書とインターネットを比較してみると、情報が違う場合がある」ことを発見しました。本校でも一人一台端末が導入され、インターネットを使用する機会が増えました。しかし、それだけに頼ることなく、様々な媒体で情報を収集することが重要であることも気づけた授業になりました。また、あまり身近ではないバラリンピックを題材にした授業を行ったのですが、子どもたちが新しい発見をする度に目を輝かせながら本をめぐっていた姿が忘れられません。

最後になりますが、「学びを支え、豊かな心を育む学校図書館～そうだ、図書館へ行こう！～」の研究主題のもと、北海道学校図書館研究大会函館大会は開催されました。今回の授業をとおして、子どもたちにとって図書館が身近な存在になったのであれば幸いです。今後も、「そうだ、図書館へ行こう！」と思えるような授業づくりをしていきたいと思えます。ご助言して下さったたくさんの先生方、本当にありがとうございました。

◇小6 資料の活用(国語科)

小学生からのSDGs～1人1台端末を用いて～

函館市立大森浜小学校 教諭 吉田智宏

本校は、数年前に近隣の3校が統合してできた学校です。統合の際に、3校の図書を持ち寄ったことで、学校図書館の蔵書は充実しており、子ども達には、恵まれた読書環境であると言えます。

また、「1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する」というGIGAスクール構想の下、本市では、今年度よりクロームブックが導入され、これまでに以上各教科におけるICT機器の活用が求められるようになりました。

そこで、今回の授業では、学校の充実した読書環境とICT機器の活用を効果的に組み合わせたものを実現できないかと考え、指導計画を立てました。

本単元は、SDGsについて自分たちが伝えたい内容を考え、スライドにまとめる学習でした。誰に、何を、何のために伝えたいのかを話し合いを通して考え、スライドという表現方法の特徴を生かしながら、絵や図、グラフや写真などを効果的に引用し、読み手にとって分かりやすくまとめていく学習過程を辿りました。学校図書館やクロームブックを活用し、課題解決のために各々が必要な情報を収集し、グーグルドキュメントに整理し、まとめる活動を位置付けました。収集した情報の取捨選択の場面では、目的意識や相手意識はもちろん、自分の考えの裏付けとしてその情報が必要かどうかを吟味させ、適切な判断ができるようにしました。

本時の授業では、自分たちの提言を決め、それに説得力をもたせるために、集めた情報を取捨選択するという活動でした。どの情報についても、確かなものであり、自分たちの提言と多かれ少なかれつながりはあるわけですが、その中でも優先順位を付けることが情報の取捨選択につながるものと考えました。子どもたちは、一つ一つの情報を改めて見返し、自分たちなりに根拠をもって優先順位を付けることができました。

子どもたちは、図書の活用よりも便利で手軽なインターネットでの情報収集に流れてしまいがちです。どちらにも一長一短があり、優劣を決めることはできません。図書は、子ども向けに書かれているので、内容理解が容易であると考えられます。一方、インターネットの情報は、万人向けですので、難解な語句が多く、子どもには内容が難しいものです。反面、インターネットの情報は、随時更新されており、最新のものにアップデートされています。図書は、そうはいきません。今後は、図書とインターネットの利点を指導する側が把握し、意図的に指導計画に位置づける必要があると思います。

この度の授業で得た成果と課題を意識し、授業実践における図書や図書館の活用について今後も学び深めていきたいと思っています。北海道学校図書館研究大会で授業をするという貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

◇高等学校 資料の活用(国語科)

学校図書館を活用した課題探究

遺愛女子高等学校 教諭 勝海安奈

本校では高校二年時に国語科の授業の一環で卒業論文を制作します。そのため「課題設定」、「情報収集」、「情報の整理・分析」、「表現」という活動を一年かけて取り組んでおります。今回の研究大会では、そのうち「情報の整理・分析」のための能力を育むことを目的として授業を試みました。

公開授業準備として、学校図書館を整備するところから始めました。函館市内の学校図書館研究会の先生のお力添えをいただき、本校の図書館のすべての資料をデータベース化し、読みたい資料・探している資料が館内にあるかコンピュータを用いて検索できるようにしました。従来本校の図書館は、メディアセンターというより、自主学习スペースとしての機能が目立っていました。しかし情報収集の環境が整ったことで、図書館を「自習する場所」ではなく、「情報を探す場所」・「探究したいテーマを深める場所」として認識する生徒が増えたように思います。

検索方法を学ぶ授業を行う際は、学校図書館の蔵書数では限りがあるため、函館市中央図書館のOPACを用いました。タブレットを使って、それぞれの課題を調べるのに適したキーワードで検索する方法を実践しました。ひとつのキーワードで出てきた情報のみで満足せず、複数のキーワードを合わせて検索したり、出てきた情報を別の立場から吟味したりする活動を通して、あらゆる情報を収集する方法を学ぶことができたように思います。その後は参考文献リストを作りながら、「情報カード」を用いて情報の内容をまとめる活動を行いました。この活動で気をつけたことは、「情報カード」に情報をまとめる活動をしながら、同じような内容の情報が他にもないかと、その種類を分類するという事です。この作業を行っていたからこそ、その後の「情報の分析」の活動が行いやすかったです。

今回研究授業の機会をいただいたことで、あらためて課題探究のあり方を考えることができました。学習指導要領の改訂により、今後さらに「探究」が求められていくと思います。そのため今後も授業を設計する上で、「探究のプロセス」をどのように機能させていくのか、じっくりと考えながら実践していきたいと思っています。

最後になりましたが、研究授業を作るため沢山の先生にご協力をいただきました。本校の学校図書館のデータベース作業を手伝ってくださった先生、授業案のご助言をいただいた先生、撮影や編集を担ってくださった先生、当日の準備を手伝ってくださった先生に、心より感謝申し上げます。

学校図書館情報

◆第49回中学生作文コンクール審査終了

各地区からの作品応募や審査協力をいただきまして、ありがとうございます。主催の北海道放送は今年創立70周年であり、「SDGs 北海道から未来へ」と局として取組を行っています。コンクールでは「いま、私たちにできること」のテーマの下、SDGs に関わる作品も少なくなく、昨年度より多い1万1千点を超える力作が寄せられました。

札幌・道央表彰式：1月5日（水）10時開催

中央表彰式：13時30分開催

北洋大通センター4階セミナーホール

道東地区：1月7日（金）13時開催

北洋銀行釧路中央支店3階会議室

道北地区：1月11日（火）13時開催

旭川北洋ビル8階小ホール

日胆地区：1月12日（水）13時開催

室蘭プリンスホテル4階桃山の間

道南地区：1月13日（木）13時開催

函館北洋ビル8階ホール

◆第54回北海道学校図書館研修講座へのご参加を

- ・1月7日（金）～15日（土）※オンライン開催
 - 7日（金）全道研究部長会
 - 8日（土）～14日（金）講座資料・動画公開、質問受付
 - 15日（土）18：00～18：30 オンラインQ&A
 - 18：40～20：00 オンライン懇親会
- ・講演：「学校図書館におけるバリアフリーの推進～「誰一人取り残さない」環境づくり」
講師 専修大学文学部 教授 野口 武悟 氏
- ・参加費：1,000円
- ・申込：12月1日（水）～25日（土）
前はHP上での開催でしたが、今回は講演や講座の動画配信や双方向の交流を企画しています。詳細は要項（HPにも掲載）をご覧ください。たくさんのご参加を期待しています。

◆資料の紹介「学校図書館の歩み～「人」をめぐる歴史と展望」（スライド・解説）

第61回北海道図書館大会が9月3日～24日にオンラインで行われました。第3講座は、当協会事務局次長である全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー 野村邦重氏が担当されました。日本の学校図書館の歩みを5つの時代区分で捉え、進展期を更に3つに分類して法整備と関連させながら、学校司書や司書教諭等の「人」に係る現状の課題や学校図書館の展望を詳細に解説しています。HPを是非ご覧ください。

◆「北海道の読書」の販売拡大の取組を

前号機関紙315号の発送に合わせて、読書感想文コンクール作品集「北海道の読書」の申込チラシをお送りしました。各学校で印刷をして各家庭に案内できるような働きかけをお願いいたします。

事務局

事務局長 佐藤 正行(札幌市立西岡南小学校長)

事務局校 札幌市立西岡南小学校

〒062-0034 札幌市豊平区西岡4条12丁目7-1

TEL 011-582-6350 FAX 011-582-1590

Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメニティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用下さい。

キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15

TEL (011) 857-3331

FAX (011) 857-5211

◆新刊紹介

『著作権ハンドブック

先生、勝手にコピーしちゃダメ!』

宮武久佳・大塚 大 著 2021年8月31日初版

ISBN 978-4-487-81338-4 東京書籍 1,760円(税込)

著作権を制するものは授業を制す! 「教育だからなんでもタダで自由」という意識から「教材は必ず作った人がいる。作った人の権利を大切にしよう」という意識への転換が大事です。

改正著作権法第35条に完全対応しています。

「保護者会でコピーしていいの?」「生徒の端末に送信していいの?」「著作権はどうしたらも

らえるの?」等の初歩的な疑問に分かりやすく答えてもらえます。また、「公衆送信」「SARTRAS」といった基本用語から具体的事例までQ&Aで解説してくれています。教育現場のみならず、SNSや動画を日常的に活用している社会人必読の書です。当協会HP「著作権ブックリスト」でも紹介しています。



編集後記

この機関紙の発行日と同時に、表彰式が1年ぶりに華やかに厳かに行われていることを想像し、とても嬉しく思います。そして、素晴らしい作品を紡いだ子どもたちに会えることが楽しみでなりません。式に係る出欠や「北海道の読書」掲載写真についての短いやり取りの中で、ご家族も含め人柄を感じ心が温くなりました。この子どもたちがつくる未来は明るいと希望を感じました。

(編集：村山 知成 杉本 操 野村 邦重)
大久保雅人 佐藤 正行

ホームページアドレス

<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>